

い い ヒ ト
“悪くない男”では一流になれない

一流の男 二流の男 三流の男

2025年10月27日発行

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は潮風洋介 著『一流の男 二流の男 三流の男』を2025年10月27日(月)に刊行いたします。

三流は焦り、二流は狙い、一流は“ただそこにいる”

本書は、この“空気の格差”をユーモアと毒気たっぷりに解剖する。数字を語らず、努力を見せず、沈黙の間合いだけで場を掌握する——そんな男がなぜモテ、なぜ信頼されるのか? 一流の男は、沈黙すらごちそうにし、笑いの間で惹きつけ、別れ際の余韻で勝負する。二流は戦略で狙いすぎ、三流は焦って空回る。努力の見せ方ひとつで、艶も信頼も吹き飛ぶのだ。仕事・会話・人間関係・夜の所作まで、「一流・二流・三流」の差を徹底比較。理屈よりも“残り香”、努力よりも“余白”——読めば、無理せず人を惹きつける男の秘密が見えてくる。ただのビジネス本でも恋愛指南でもない。笑って読めて、読後には自分の中の“男”が一段深くなる、“令和の艶マナー本”だ。『「男の色気」のつくり方』『「男の自信」のつくり方』『「男の余裕」のつくり方』に続く、潮風洋介「艶(アデ)シリーズ」第4弾。

タイトル:一流の男 二流の男 三流の男

著者:潮風洋介 価格:1,540円(10%税込)

ページ数:192ページ 発行日:2025年10月27日

ISBN:978-4-86667-787-3

【目次】

プロローグ 女も男も骨抜きにする「一流の男」の美学

第1章 仕事は「余韻」がすべて——数字より「残像」が人を動かす

第2章 なぜか人が集まる男(オス)の秘密

——沈黙も質問も、骨抜きの媚薬になる。
黙っていても頼られる「人たらし」の流儀

第3章 人間関係こそ心の鏡——友人・取引先・仲間があなたを映す

第4章 居場所と習慣で未来は決まる——どこで誰と過ごすかが格を作る

第5章 抜きどきに色気は宿る——「脱力感」と「没頭」で勝負する

第6章 フェロモンは最強のプレゼンテーション——佇むだけで人も恋も動かす「余韻」の技術

【著者プロフィール】潮風洋介(しおなぎ・ようすけ)



著者・作家・イベントプロデューサー・出版プロデューサー

著書77冊・累計177万部。

「サードプレイス推進」「恋愛文化の発展」をテーマに出版。『もう「いい人」になるのはやめなさい!』(KADOKAWA/中経出版)は、シリーズ累計21万部突破のベストセラーに。「心の壁を壊し、生きることを楽しもう」をステートメントに「サードプレイス主義」を掲げ活動。

約100種類のアソビビジネス・メニューから、その人に合った「オリジナルなアソビビジネス」を診断・創造するLD法を開発し、企業・団体規模や分野を問わず講演・ワークショップを多数共催している。



第一弾



男の色気
の作り方

潮風洋介

「その一言」「そのしぐさ」
が、違いをつくる。

大人気の「男の色気」を磨くための、
秘伝に集ったお洒落な大人の秘密40

150万部

「男の色気」の作り方
2015年6月21日刊行
1,430円(税込)

第二弾



男の自信
の作り方

潮風洋介

揺るぎない「自信」を
手に入れるために
「男の中の男」が実践していること

173万部

「男の自信」の作り方
2016年10月3日刊行
1,430円(税込)

第三弾



男の余裕
の作り方

潮風洋介

その「余裕」
生命体の男としての
周波が違う！

173万部

「男の余裕」の作り方
2023年12月19日刊行
1,430円(税込)

最新作！



一流の男
二流の男
三流の男

潮風洋介

「悪くない男」では
一流にはなれない。

美字かにじみ出る大人の秘密40

177万部

一流の男
二流の男
三流の男

2025年
10月27日刊行
1,540円(税込)

オス
なぜか人が集まる男の秘密
—— 沈黙も質問も、骨抜き媚薬になる。黙っていても頼られる「人たらし」の流儀

褒められた瞬間にバレるもの

※以下、本書より一部抜粋

ある成果について褒められたとき、成功は自分ひとりだけの力だけではない——そう心底思えるかどうかが一流の条件だ。小さなアドバイスや何気ない笑顔が、自分を押し上げてくれたことを、どこまで覚えていられるか？ 感謝の器の大きさが一流かどうかを決める。

一流は、「あなたのおかげで、といえる」

一流の男は、自身を勝利に導いた恩人を何十人、何百人と決して忘れない。そのために各個人のおかげさまを一人ひとり、人知れず紙に書き出す。

売上が伸び悩んでいたときの、「〇〇社に提案してみたら？」というひと言。生産効率を上げたいときに、「週一で20分だけ、クイズ形式の勉強会をやるといいよ」とヒントをくれた人。笑いのセンス抜群の友人のひと言で心が軽くなり、集中力が戻った夜。帰宅して眠る子どもの顔を見て静かに燃えあがった深夜。

そのすべてが追い風となり、今の自分を押し上げたことを忘れない。

二流は、「照れてごまかす」

二流は褒められると「いやいや、そんな」と困ったふうにもじもじする。悪くはない。謙遜も謙虚も美德だ。だがプロの世界では「偶然の一発屋」に見えてしまうこともある。成功を持続させるには、「ありがとうございます。運もありましたが、この強みをもっと伸ばしていきます」くらいの言葉は必要だ。

女性がせっかく「〇〇さんといると楽しい」といってくれているのに、「他の人と比べてマシってこと？」とこじれふうの表現ミスもする。

笑って受け取って、「俺も楽しいよ！ じゃあもう一件行こう」でいいのだ。

三流は、「自慢で上塗りする」

ほめられた直後、「やっぱり俺ってさ」から始まる、長い自画自賛。

下剋上マインドが功を奏する場面もあるが、過ぎれば毒。他社の悪口や部下のグチが混ざれば、心の不安定さが露呈し、一発屋確定。その場の空気も運も逃げ、恋も仕事も、静かにしぼんでいく。

挙句は冗談のつもりで、「まあ俺と一緒にいられるのも、今のうちだよ(笑)」。

これで完全に空気は凍り、本人はシベリア寒気団長を拝する。